

hot news

## 平成14年度市政世論調査の結果を公表

### ●今回のテーマは「新たな都市経営の取組」

市民の皆さんの意見や要望を市政に反映させるため、毎年実施している市政世論調査。今年度の主な調査結果（速報値）を紹介いたします（対象者千五百人、回収率80・1％）。

#### ■新たな都市経営の取組

○協働型社会の実現に向けて重要なこと「市民がまちづくりに関心を持つこと」が50・2％と最も高く、「行政からの情報提供が充実すること（31・1％）」、「地域活動や市民活動を担う人材が育つこと（27・9％）」と続いています。

○地域住民や活動団体などがもっと担っても良い公共サービス「生活道路の除雪（43・9％）」、「地域の障害者やお年寄りへの福祉サービス（38・3％）」、「生活道路の清掃（31・6％）」、「地域の公園の管理（31・1％）」が高い割合を占めました。

#### ■郷土意識（毎年実施）

「札幌の街が好き」は97・9％。二十三年連続で九割以上を占めています。

#### ■市政への要望（毎年実施）

上位から「除雪」、「高齢者福祉」、「公共交通の利便性向上」となっています。

【詳細】市民の声を聞く課 ☎(211) 2042

hot news

## ビルなどの給水設備をより衛生的に

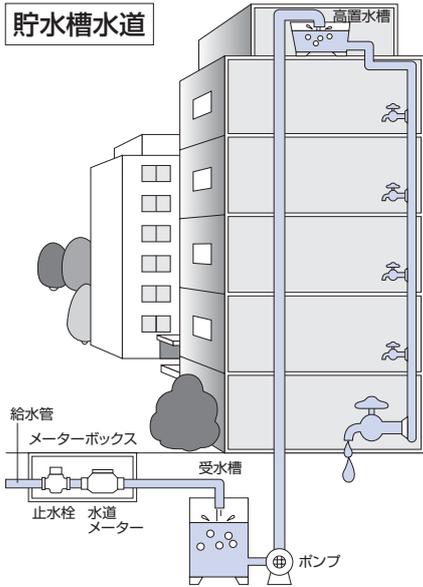
### ●4月から水道条例が変わります

ビルやマンションなどの給水設備に関する水道事業給水条例が四月から変わります。

今回の改正は、より安全で良質な水道水の供給を目指し、ビルの受水槽など給水設備の衛生管理を一層充実させるためのもので、これまで、給水設備の設置者（ビルなどの所有者）に対しては、保健所が法令などに基づき規制・指導をしてきましたが、今後は、水道局でも働き掛けができるようになります。

不十分な場合、改善などに関する指導・助言を行うとともに、利用者に対しては、その調査結果の情報を提供していきます。

簡易専用水道の設置者は、これまで同様、定期的な清掃【詳細】給水課 ☎(211) 7032



- ※1 簡易専用水道＝受水槽の有効容量が10㎡を超えるもの（2～3人世帯がおおむね30～40軒以上入居している建物に該当）。市内に約4,100棟。
- ※2 小規模貯水水槽水道＝受水槽の有効容量が10㎡以下のもの。市内に約9,100棟。

hot news

## 「教えて！ファイヤーマン」を実施

●消防士が小学校で防火・防災の大切さを教える



将来のまちづくりを担う子供たちに、防火・防災に関する知識や技術を身に付けてもらうため、新年度から、現職の消防士が小学校の授業で講師を務める「教えて！ファイヤーマン」を実施します。

対象となる学年は、小学四年生。社会科の「安全なくらしとまちづくり」という単元に合わせて派遣します。初年度は、市内十カ所に設置されている「防火・防災まちづくりモデル地区」内の小学校を中心に、全市で二十校程度を選定。五月中旬から順次実施していきます。

授業では、子供たちに身をもって体験してもらうことを重視。実際に災害現場で使用した防火衣や空気呼吸器などを手にして、消防士の仕事を身近に感じてもらいます。また、教室内で無害の煙を発生させて避難方法を確認するほか、模擬装置による一一九番通報を試みるなど、災害発生時の対応も学びます。

講師となる消防士は市消防局内部での局内公募により選抜。授業を行うための研修を受講した後、二人一組で派遣されます。実施後には、児童や教師にアンケート調査を行い、次年度以降、さらなる内容の充実を図っていく考えです。

【詳細】予防課 ☎(215) 2040